

令和3年度

学 生 表 彰 式



日 時： 令和4年2月14日（月）
表彰式会場： 210教室

公立大学法人 山陽小野田市立
山口東京理科大学

令和3年度 学生表彰式

令和4年2月14日（月） 10時00分
於 2号館 210教室

1. 開式 (10時00分)

1. 学長挨拶 (10時00分)

1. 優秀賞授与 (10時10分)

【課外活動等】優秀賞（学長より授与）

団体 自動車部（学生フォーミュラチーム）

団体 ロボット・メカトロニクス部

1. 学生部長挨拶 (10時30分)

【課外活動等】功労賞（学生部長より授与）

団体 学友会本部

クラブ活動運営委員会

第26回竜王祭実行委員会

【課外活動等】奨励賞（学生部長より授与）

団体 教育研究サークル

硬式野球部

個人 応用化学科 4年 北島 薫

応用化学科 4年 塩崎 祐太

応用化学科 4年 竹谷 颯真

応用化学科 4年 水野 翔真

薬学科 3年 久保田 美春

1. 受賞者挨拶 (10時50分)

団体 自動車部（学生フォーミュラチーム） 4年 安田 幹太

1. 記念撮影 (10時55分)

都合により、一部変更することがありますので、ご了承ください。

※各賞毎に五十音順、敬称略

【課外活動等】

最優秀賞

○該当なし

優秀賞

○自動車部（学生フォーミュラチーム）

学生フォーミュラチームに所属した24名の部員は第19回フォーミュラ日本大会に向け、コロナ禍の活動自粛の中、感染対策を厳重に実施し厳しい大会ものづくり規則を遵守し自ら計画した行動プロセスに従い既定の車両を完成、オンラインによる静的審査を全項目規定通り遂行し25位/61校中となり日本自動車工業会会長賞を受賞した。その後開催された公式記録会では順位判定は無かったが参加校中上位の静的データを記録した。また、地域のイベントでは子供たちにもものづくりの楽しさを伝え、社会活動及び本学の広報活動にも大いに貢献した。

○ロボット・メカトロニクス部

コロナ感染拡大防止のために活動期間が限られる中、キャチロボバトルコンテスト第11回大会及び第8回トマトロボット競技会にロボットを製作し、学外の大会に参加した。コロナ対策の関係から、以前のような十分な技術交流などは難しい状況の中、学外で開催されている一般のロボット競技会へそれぞれのアイデアを組み込んだロボットを製作し、本戦に進んだ。これらの活動は本学の広報活動にも大いに貢献した。

功労賞

○学友会本部

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動を自粛せざるを得なかった昨年度を乗り越え、今年度は感染症対策に留意しながら「クリスマスイベント」を企画・開催し、コロナ禍で薄くなった学生同士のかかわりを取り戻すことに貢献した。また、放置傘を整理、貸出用の傘を設置した。さらに、マナー向上キャンペーン（5日間）を設け、喫煙や駐輪マナー等に関する啓発活動を行った。これらの活動を通して、思い出に残る学生生活を送ることができるための環境づくりを目指しつつ、学生生活活動活発化の一助となった。

○クラブ活動運営委員会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動を自粛せざるを得なかった昨年度を乗り越え、今年度は感染症対策に留意しながら学友会主催のマナー向上キャンペーンや、キャンパスクリーンキャンペーンにクラブ単位で積極的に参加し、キャンペーンの活発化に貢献した。また、竜王祭実行委員会に協力し、竜王祭1日目であった「スポーツの日」の安全開催に貢献した。なお、定期的に開催しているクラブ活動運営委員会にて審議を重ね、学友会や竜王祭実行委員会との連携を重視し、再び課外活動を活発化することに貢献した。

○第26回竜王祭実行委員会

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、活動を自粛せざるを得なかった昨年度を乗り越え、今年度の第26回竜王祭は、「Energy Emission」をテーマに掲げ、企画・準備・運営に取り組んだ。このテーマには、学生のエネルギーを発散させるという意味が込められており、感染防止の観点から「学内者のみの開催」「規模を縮小」「消毒等の感染予防対策の徹底」に努め、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で成果物の発表が困難になったクラブ活動に発表の場を提供し、2日間、無事開催することができた。これらは学生生活活動活発化の一助となった。

奨励賞

○教育研究サークル

市内の小学校におけるスクールボランティア活動で授業における学習支援や休み時間の子どもとの関わりを主として、学校施設の清掃や教材の準備といった教育活動を陰から支える活動にも意欲的に参加した。また、市内の中学校においても、定期テスト前の補充学習会に赴き、個別の学習支援に従事し、社会活動にも大いに貢献した。

○硬式野球部

市内の飲食店を応援するイベントに参加し、市内24店舗のテイクアウト飲食物を食べ、10文字程度キャッチフレーズを考え、青年部と一緒にチラシを作成し、山陽小野田市内の21,000世帯に配布した。さらにオンラインで開催された「おのだ七夕祭り2021」において放送されたテイクアウト飲食物を紹介する動画を作成した。このボランティア活動によって厳しい状況にある市内の飲食店を本学の学生が応援することで地域に貢献し、小野田商工会議所が行う一大イベントの開催に貢献した。

○応用化学科 4年 北島 薫

昨年度から今年度にかけて埴生・津布田の魅力を発信するパンフレットを作成するボランティアを行い、パンフレットは2,000部印刷され、市内（公民館、図書館、本学など）で配布された。その後、山陽小野田市役所より4,000部増刷され、山口ゆめ回廊博覧会における本市の配布物として用いられ、日本航空（JAL）の協力により山口宇部空港でも配布され、3社の新聞に掲載されることで、本学の広報活動にも大いに貢献した。

○応用化学科 4年 塩崎 祐太

昨年度から今年度にかけて埴生・津布田の魅力を発信するパンフレットを作成するボランティアを行い、パンフレットは2,000部印刷され、市内（公民館、図書館、本学など）で配布された。その後、山陽小野田市役所より4,000部増刷され、山口ゆめ回廊博覧会における本市の配布物として用いられ、日本航空（JAL）の協力により山口宇部空港でも配布され、3社の新聞に掲載されることで、本学の広報活動にも大いに貢献した。

○応用化学科 4年 竹谷 颯真

昨年度から今年度にかけて埴生・津布田の魅力を発信するパンフレットを作成するボランティアを行い、パンフレットは2,000部印刷され、市内（公民館、図書館、本学など）で配布された。その後、山陽小野田市役所より4,000部増刷され、山口ゆめ回廊博覧会における本市の配布物として用いられ、日本航空（JAL）の協力により山口宇部空港でも配布され、3社の新聞に掲載されることで、本学の広報活動にも大いに貢献した。

○応用化学科 4年 水野 翔真

昨年度から今年度にかけて埴生・津布田の魅力を発信するパンフレットを作成するボランティアを行い、パンフレットは2,000部印刷され、市内（公民館、図書館、本学など）で配布された。その後、山陽小野田市役所より4,000部増刷され、山口ゆめ回廊博覧会における本市の配布物として用いられ、日本航空（JAL）の協力により山口宇部空港でも配布され、3社の新聞に掲載されることで、本学の広報活動にも大いに貢献した。

○薬学科 3年 久保田 美春

昨年度から今年度にかけて埴生・津布田の魅力を発信するパンフレットを作成するボランティアを行い、パンフレットは2,000部印刷され、市内（公民館、図書館、本学など）で配布された。その後、山陽小野田市役所より4,000部増刷され、山口ゆめ回廊博覧会における本市の配布物として用いられ、日本航空（JAL）の協力により山口宇部空港でも配布され、3社の新聞に掲載されることで、本学の広報活動にも大いに貢献した。